

所属	心理学研究科 現代心理学専攻 修士課程	修了年度	2024 年度
氏名	中山健	指導教員 (主査)	小野寺敦子

論文題目	青年期の親の養育態度とインターネット依存および日常生活態度との関連
------	-----------------------------------

本文概要
【問題・目的】近年の青年期のインターネット利用率は 98%を超え（総務省, 2024）、インターネット依存(以下, ネット依存)による問題が懸念されている。ネット依存は青年期を中心とした問題である(総務省, 2013)。これまで青年期の問題は親の養育との関連性について研究されており, ネット依存による問題は親の養育が関与していると考えられる。海外では, 親のサポートや管理がない子どもは見境なくインターネットを使っていることを明らかにされており (Tru-porcar, 2017)、青年期のインターネット利用に関連した問題を解決するためには、親は子どものインターネット利用について子どもに十分な説明を行ったうえでサポートや管理をすることが重要であると考えられる。日本では、思春期の実態把握調査(株式会社マクロミル・認定 NPO 法人カタリバ, 2018)によると、親は学校生活よりもインターネット利用について把握できていないと考えられる。以上のことから、青年期のインターネット利用について親が把握していないまま管理を行っていることで、青年期のインターネット利用に関連した問題が起こっている可能性がある。そこで本研究では、青年期の親の養育態度とインターネット依存および日常生活態度との関連について検討を行うことを目的とする。また、養育態度をインターネット利用と日常生活に対する養育態度にわけて差異についても明らかにする。日常生活態度は、インターネット依存に関連して起こりうる問題行動の現在の人間関係や私生活と学校生活の状況に加え、内面的な問題として時間的展望について検討する。 【方法】尺度を作成するため 2024 年 2 月に予備調査を行い、大学生 6 名(男性 4 名, 女性 2 名, 平均 21.67 歳, $SD = 2.80$)を対象に半構造化面接法によるインタビュー調査を行った。得られた回答を分類・整理し、指導教員および大学院生 2 名と項目について議論してインターネット利用に対する親の養育態度尺度、インターネット依存尺度、現在の生活状況に関する尺度を作成した。本調査では、調査対象者は、18 歳から 25 歳までの大学生 249 名を対象に回答を得た。そのうち、中学生と高校生の時に両親が居た 235 名(男性 57 名, 女性 176 名, その他 2 名)を分析に用いた。調査時期は、2024 年 7 月に実施した。調査内容はインターネット調査会社を介した質問紙調査を行った。使用した尺度は①青年期養育態度尺度(内海, 2013)を父親と母親にわけて計 18 項目 4 件法、②時間的展望体験尺度(白井, 1994)18 項目 4 件法、③青年期のインターネット利用に対する親の養育態度尺度を父親と母親にわけて計 18 項目 4 件法、④インターネット依存尺度 10 項目 4 件法、⑤現在の生活状況に関する尺度 20 項目 4 件法を用いた。 【結果と考察】青年期の親の養育態度とインターネット依存および日常生活態度との関連について検討するため、クラスター分析を行い、クラスターを作成した後、多重コレスポンデンス分析を行った。その結果、親の「モニタリング」クラスターは、インターネット依存の低さ、肯定的な時間的展望、現在の生活状況の良さとの関連性がみられた。インターネット利用と日常生活に対する養育態度の差異について、親は子どもの日常生活よりもインターネット利用に対して、心理的に統制しており、モニタリングしてこなかったことが明らかになった。以上のことから、子どものインターネット利用に対して親は直接的に子どもを取り巻く環境を整備することで問題を引き起こす要因から子どもを遠ざけようとするが、親がインターネットの行動内容を把握できていないことで子どもを一方的にコントロールすることになってしまい、かえってインターネット依存やそれに関連した問題が生じてしまうと考えられる。今後の子どものインターネット利用と親子関係の研究において、個人特性やインターネットの性質を踏まえたうえで、子どもと親それぞれの視点から、インターネット利用と親子関係の関連性について検討する必要がある。